

石見銀山

Iwami-Ginzan Silver Mine Site

石見銀山遺跡発掘調査報告書Ⅳ



— 昆布山谷地区 —

2019年3月

島根県大田市教育委員会



序

本書は、大田市教育委員会が、石見鉾山遺跡昆布山谷地区において実施した発掘調査の報告書であります。

石見鉾山遺跡は16世紀から20世紀にかけて採掘から精錬までが行われた鉾山跡を中心として、周囲の山城跡や銀鉾山から港までを結ぶ2本の街道、鉾石・銀の積み出しや諸物資を搬入した港湾などからなる複合遺跡です。

石見鉾山遺跡の発掘調査は1983（昭和58）年からはじまり、現在に至るまで継続して実施してまいりました。発掘調査でみつかった遺構・遺物が如実に物語った遺跡の価値は、人類にとって顕著で普遍的な価値を有すると評価され、2007（平成19）年にユネスコ世界遺産に登録されました。

世界遺産登録後も、石見鉾山遺跡には未解明な部分が多く、遺跡を解明するための総合調査は継続して実施しています。今後の調査研究により、さらなる発見が期待されます。

本書にて報告する昆布山谷地区の発掘調査は、平成22年度から平成29年度までの8年間にわたり実施してまいりました。昆布山谷地区は、その入り口には鉾山の守り神である佐毘売山神社があり、石見鉾山の中でも古くより利用が始まった場所です。また、近代においては藤田組による再開発がなされるなど、開発初期から閉山に至るまで利用されてきました。発掘調査では、江戸時代から近代にいたるまでの開発や居住に関する遺構が、谷の広い範囲で見つかりました。また、江戸時代をとおして町の景観が変わっていく様子が、一部ではありますが明らかとなってきました。石見鉾山を明らかとするための取組みは、一歩ずつではありますが、着実に進展しております。

本書が、石見鉾山遺跡に関心を寄せる方々にとって有効に活用され、調査研究の進展に資すれば幸いです。

調査に際して、DOWAホールディングス株式会社をはじめとする土地所有者の方々、地元関係者、作業員の皆様のご理解と多大な協力を頂き、誠にありがとうございました。また、調査指導を賜りました諸先生方にも、あらためて御礼申し上げます。

平成31年3月

島根県大田市教育委員会
教育長 船木三紀夫

例 言

1. 本書は、鳥根県大田市大森町に所在する史跡石見銀山遺跡の発掘調査報告である。
2. 調査は国庫補助事業として大田市教育委員会が事業主体となって実施した。
3. 本書は、平成22年度から平成29年度にかけて昆布山谷地区で実施した調査成果をまとめたものである。
4. 調査体制は下記のとおりである。

〔石見銀山遺跡調査整備活用委員会〕

太田洋子 (熊谷家住宅家の女たち代表)	黒田乃生 (筑波大学大学院教授)
高安克己 (鳥根大学名誉教授)	田邊征夫 ((公財)大阪府文化財センター理事長)
田中哲雄 (元東北芸術工科大学教授)	玉串和代 (鳥根県立古代出雲歴史博物館館長)
内藤ユミザベル (日本イコモス国内委員会理事)	中塩 弘 (DOWAホールディングス㈱取締役)
仲野義文 (石見銀山資料館館長)	中村俊郎 (中村プレス㈱代表取締役会長)
村田信夫 (歴史的建造物修復建築家)	和上豊子 (元石見銀山ガイドの会長)

〔石見銀山遺跡調査専門委員会〕

井上雅仁 (鳥根県立三瓶自然館学芸課課長代理)	大橋泰夫 (鳥根大学法文学部教授)
岡美穂子 (東京大学史料編纂所准教授)	黒田乃生 (筑波大学大学院教授)
高妻洋成 (奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長)	佐々木愛 (鳥根大学法文学部教授)
田邊征夫 ((公財)大阪府文化財センター理事長)	津村眞輝子 (古代オリエント博物館研究部長)
中西哲也 (九州大学総合研究博物館准教授)	仲野義文 (石見銀山資料館館長)
原田洋一郎 (東京都立産業技術高等専門学校教授)	松村恵司 (奈良文化財研究所所長)
山村亜希 (京都大学大学院准教授)	

〔事務局〕 大田市教育委員会石見銀山課

〔調査員〕 山手貴生・新川 隆・尾村 勝 (大田市教育委員会石見銀山課)

〔遺物整理〕 高村玲子・井上伸子・浅野美貴

〔調査指導〕 文化庁記念物課、独立行政法人奈良文化財研究所、鳥根県教育委員会

5. 挿図の縮尺は、図中に示した。
6. 挿図中の座標は世界測地系を使用した。またレベル高は標高を示す。
7. Fig. 1・Fig. 2は国土交通省国土地理院発行の地形図を縮小編集し、一部加筆して使用した。
8. 本文中に使用した略号は下記のとおりである。
S B—住居跡 S D—溝跡 S F—道跡 S K—土坑 S P—柱穴 S W—石垣・石積み S X—が跡、特殊遺構
9. 挿図中のマンセル表記及び土色は農林水産省技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』によった。
10. 発掘調査及び本書の執筆にあたっては、下記の方々にご指導・ご教授を賜った(50音順、敬称略)。なお、肩書は当時のものである。
大橋康二 (九州陶磁文化館名誉館長)・大橋泰夫・小野正敏 (国立歴史民俗博物館教授)・高安克己・中村唯史 (鳥根県立三瓶自然館調整幹)・吉岡泰英 (福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館館長)
11. 昆布山谷地区第5地点の土層剥ぎ取りと土壌サンプル採取、第6地点の木舞の取上げは、鳥根県古代出雲歴史博物館学芸員の澤田正明氏の立会いの下で実施した。
12. 本書の執筆は、第1・2・4・5章を山手が、第3章を尾村が行った。本文中の挿図は、遺構図について

- ては尾村が、遺物実測図については新川が中心になって作成した。写真については、遺構写真は各担当者が、遺物写真については山手が撮影した。編集は筆者協議の上、新川が行った。
- 付編1は平成27年度、付編2・3は平成30年度の石見銀山遺跡科学調査で実施した科学分析の成果である。本文は分析の委託先及び科学調査関係者より、玉稿を賜った。各付編の筆者は本文に付した。
 - 付編4は寺岡菜穂子(当時島根大学法文学部4回生)が平成29年度に島根大学に提出した卒業論文を再構成した。本論における各地区の解釈は、執筆者の分析による。
 - 出土資料及び実測図・写真などは大田市教育委員会で保管している。

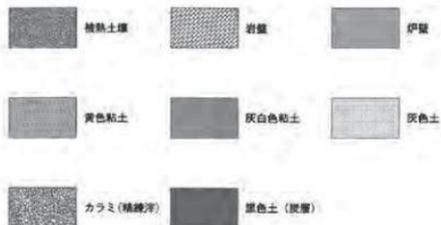
凡 例

1. 図版の表現

遺構・遺物図版中における表記は下記による。

これ以外のものについては個別に図中に示した。

[遺 構]



[遺 物]



図中の▼印あるいは一点鎖線(図中↑箇所)は施釉範囲の境界を示す。

2. 本文中の語句

以下の語句については、カタカナ表記に統一し、その意味を定義しておく。

- ズ リ・・・選鉱過程にて除去される化学的变化に起因しない目的外鉱物をいう
 ユリカス・・・比重選鉱により除去された砂粒
 カラミ・・・広義の製錬工程にて排出された鉱滓

本文目次

第1章 遺跡の位置と概要

- 第1節 遺跡の位置と概要……………1
- 第2節 調査方針及び指導・公開関係……………1

第2章 調査の経緯と経過

- 第1節 昆布山谷地区の概要……………3
- 第2節 昆布山谷地区の調査の経緯……………4

第3章 分布調査

- 第1節 分布調査の概要……………9
- 第2節 平坦面の様相……………9
- 第3節 分布調査の成果……………12

第4章 昆布山谷地区の調査成果

- 第1節 第1地点……………17
- 第2節 第2地点……………26
- 第3節 第3地点……………47
- 第4節 第4地点……………52
- 第5節 第5地点……………75
- 第6節 第6・7地点……………137
- 第7節 第8地点……………151

第5章 総括……………157

- 第1節 昆布山谷地区の調査成果……………157
- 第2節 考察……………159
- 第3節 総括……………163

付編

1. 石見銀山遺跡昆布山谷地区（第5地点Ⅲ区）出土鍛冶関連遺物の分析調査……………167
 2. 昆布山谷より出土した製錬関連資料のX線CT調査について……………185
 3. 石見銀山遺跡昆布山谷地区出土資料の蛍光X線分析……………195
 4. 陶磁器からみる石見銀山遺跡の土地利用の変遷—昆布山谷地区を中心に—……………201
- 図版……………209

挿図目次

Fig.1	石見銀山遺跡位置図 (S = 1 / 100,000)	3
Fig.2	石見銀山遺跡調査地点位置図 (S = 1 / 20,000)	8
Fig.3	昆布山谷地区平坦面番号表示図 (S = 1 / 2,000)	10
Fig.4	昆布山谷地区分布調査採集遺物実測図Ⅰ (S = 1 / 3)	13
Fig.5	昆布山谷地区分布調査採集遺物実測図Ⅱ (S = 1 / 3)	14
Fig.6	昆布山谷地区分布調査採集遺物実測図Ⅲ (S = 1 / 6)	15
Fig.7	昆布山谷地区第1地点地形図 (S = 1 / 200)	17
Fig.8	昆布山谷地区調査地点位置図 (S = 1 / 1,500)	18
Fig.9	昆布山谷地区第1地点遺構配置図 (S = 1 / 60)	19
Fig.10	昆布山谷地区第1地点第1トレンチ平面・断面図 (S = 1 / 40)	20
Fig.11	昆布山谷地区第1地点第2トレンチ平面・断面図 (S = 1 / 40)	21
Fig.12	昆布山谷地区第1地点第2トレンチSX03平面・断面図 (S = 1 / 20)	21
Fig.13	昆布山谷地区第1地点第8トレンチ平面・断面図 (S = 1 / 40)	22
Fig.14	昆布山谷地区第1地点出土遺物Ⅰ (S = 1 / 2, 1 / 3, 1 / 6)	24
Fig.15	昆布山谷地区第2地点地形図、調査区配置図 (S = 1 / 200)	26
Fig.16	昆布山谷地区第2地点遺構配置図 (S = 1 / 120)	27
Fig.17	昆布山谷地区第2地点SB01平面図・断面図 (S = 1 / 100)	28
Fig.18	昆布山谷地区第2地点Ⅰ区平面図・断面図 (S = 1 / 60)	29
Fig.19	昆布山谷地区第2地点Ⅱ区平面図・断面図 (S = 1 / 60)	30
Fig.20	昆布山谷地区第2地点Ⅲ区下層確認トレンチ平面図・断面図 (S = 1 / 40)	31
Fig.21	昆布山谷地区第2地点Ⅲ区石組遺構 (S = 1 / 30)	31
Fig.22	昆布山谷地区第2地点Ⅲ区平面図・断面図 (S = 1 / 60)	32
Fig.23	昆布山谷地区第2地点Ⅲ区SK01平面図・断面図 (S = 1 / 20)	33
Fig.24	昆布山谷地区第2地点Ⅲ区SK02・03平面図・断面図 (S = 1 / 20)	33
Fig.25	昆布山谷地区第2地点Ⅳ区平面・断面図 (S = 1 / 60)	34
Fig.26	昆布山谷地区第2地点Ⅴ区平面図・断面図 (S = 1 / 60)	35
Fig.27	昆布山谷地区第2地点Ⅴ区SB02平面図・断面図 (S = 1 / 60)	36
Fig.28	昆布山谷地区第2地点Ⅴ区SX01平面図・断面図 (S = 1 / 20)	36
Fig.29	昆布山谷地区第2地点Ⅵ区平面図・断面図 (S = 1 / 40)	37
Fig.30	昆布山谷地区第2地点出土遺物Ⅰ (S = 1 / 2, 1 / 3)	38
Fig.31	昆布山谷地区第2地点出土遺物Ⅱ (S = 1 / 3, 1 / 6)	39
Fig.32	昆布山谷地区第2地点出土遺物Ⅲ (S = 1 / 3, 1 / 6)	40
Fig.33	昆布山谷地区第2地点出土遺物Ⅳ (S = 1 / 2, 1 / 3, 1 / 6)	41
Fig.34	昆布山谷地区第2地点出土遺物Ⅴ (S = 1 / 2, 1 / 3, 1 / 6)	42
Fig.35	昆布山谷地区第3地点地形図 (S = 1 / 100)	48
Fig.36	昆布山谷地区第3地点SB01 (S = 1 / 60)	49
Fig.37	昆布山谷地区第3地点SB01 (S = 1 / 40)	50
Fig.38	昆布山谷地区第3地点SX01 (S = 1 / 20)	50
Fig.39	昆布山谷地区第3地点出土遺物 (S = 1 / 2, 1 / 3, 1 / 6)	51
Fig.40	昆布山谷地区第4地点周辺地形図、遺構配置図 (S = 1 / 100)	53
Fig.41	昆布山谷地区第4地点平面図・断面図 (S = 1 / 60)	55
Fig.42	昆布山谷地区第4地点SB01平面図・断面図 (S = 1 / 60)	57
Fig.43	昆布山谷地区第4地点SB01床下遺構 (S = 1 / 40)	58

Fig.44	昆布山谷地区第4地点SK01平面図・土層断面図 (S = 1/20).....	59
Fig.45	昆布山谷地区第4地点SK02平面図・土層断面図 (S = 1/20).....	60
Fig.46	昆布山谷地区第4地点SX01・SX02平面図・土層断面図 (S = 1/20).....	61
Fig.47	昆布山谷地区第4地点SW01・SD01平面図・立面図 (S = 1/40).....	62
Fig.48	昆布山谷地区第4地点SW02平面図・立面図 (S = 1/40).....	63
Fig.49	昆布山谷地区第4地点SW03平面図・立面図 (S = 1/20).....	64
Fig.50	昆布山谷地区第4地点SW04平面図・立面図 (S = 1/20).....	64
Fig.51	昆布山谷地区第4地点道トレンチ平面図・立面図 (S = 1/40).....	66
Fig.52	昆布山谷地区第4地点下層確認トレンチ平面図・断面図 (S = 1/50).....	66
Fig.53	昆布山谷地区第4地点出土遺物実測図I (S = 1/3).....	67
Fig.54	昆布山谷地区第4地点出土遺物実測図II (S = 1/2, 1/3).....	69
Fig.55	昆布山谷地区第4地点出土遺物実測図III (S = 1/3, 1/6).....	71
Fig.56	昆布山谷地区第4地点出土遺物実測図IV (S = 1/3).....	73
Fig.57	昆布山谷地区第5地点周辺地形図 (S = 1/160).....	76
Fig.58	昆布山谷地区第5地点上層遺構配置図 (S = 1/120).....	77
Fig.59	昆布山谷地区第5地点I区上層遺構配置図 (S = 1/100).....	78
Fig.60	昆布山谷地区第5地点I区下層遺構配置図 (S = 1/60).....	79
Fig.61	昆布山谷地区第5地点I区土層断面I (S = 1/40).....	80
Fig.62	昆布山谷地区第5地点I区土層断面II (S = 1/40).....	81
Fig.63	昆布山谷地区第5地点I区SB01平面図・SW02平面図・立面図 (S = 1/80).....	83
Fig.64	昆布山谷地区第5地点I区岩盤加工遺構SX02平面図・立面図 (S = 1/60).....	85
Fig.65	昆布山谷地区第5地点I区ユリカス堆積層検出状況 (S = 1/60).....	87
Fig.66	昆布山谷地区第5地点I区土層断面図III (S = 1/40).....	88
Fig.67	昆布山谷地区第5地点I区土層断面図III土色.....	89
Fig.68	昆布山谷地区第5地点I区SK03・04平面図・土層断面図 (S = 1/40).....	90
Fig.69	昆布山谷地区第5地点I区SK03・04石積み立面図 (S = 1/40).....	91
Fig.70	昆布山谷地区第5地点I区SK05平面図・立面図・土層断面 (S = 1/40).....	91
Fig.71	昆布山谷地区第5地点I区SX28・SD05平面図・土層断面図 (S = 1/20).....	94
Fig.72	昆布山谷地区第5地点I区SX17・18・19平面図・土層断面図 (S = 1/20).....	95
Fig.73	昆布山谷地区第5地点I区SD09～SD11平面図・土層断面図 (S = 1/40).....	96
Fig.74	昆布山谷地区第5地点II区平面図・土層断面図 (S = 1/100).....	98
Fig.75	昆布山谷地区第5地点II区SB02・SB03平面図・断面図 (S = 1/80).....	100
Fig.76	昆布山谷地区第5地点II区SK01・SX07・10・11平面図・断面図 (S = 1/30).....	102
Fig.77	昆布山谷地区第5地点II区SW04・05平面図・立面図 (S = 1/40).....	103
Fig.78	昆布山谷地区第5地点III区SB04平面図・断面図 (S = 1/80).....	105
Fig.79	昆布山谷地区第5地点III区SK02・SX14・15・16平面図・断面図 (1/30).....	106
Fig.80	昆布山谷地区第5地点第1トレンチ平面図・土層断面図 (1/40).....	108
Fig.81	昆布山谷地区第5地点第1トレンチ平面図・立面図 (1/40).....	109
Fig.82	昆布山谷地区第5地点出土遺物実測図I (S = 1/3).....	111
Fig.83	昆布山谷地区第5地点出土遺物実測図II (S = 1/3).....	112
Fig.84	昆布山谷地区第5地点出土遺物実測図III (S = 1/3).....	113
Fig.85	昆布山谷地区第5地点出土遺物実測図IV (S = 1/3).....	114
Fig.86	昆布山谷地区第5地点出土遺物実測図V (S = 1/3).....	115
Fig.87	昆布山谷地区第5地点出土遺物実測図VI (S = 1/3).....	116
Fig.88	昆布山谷地区第5地点出土遺物実測図VII (S = 1/3).....	117
Fig.89	昆布山谷地区第5地点出土遺物実測図VIII (S = 1/3).....	118

Fig.90	昆布山谷地区第5地点出土遺物実測図IX (S = 1/3)	119
Fig.91	昆布山谷地区第5地点出土遺物実測図X (S = 1/3, 1/4)	120
Fig.92	昆布山谷地区第5地点出土遺物実測図XI (S = 1/6)	121
Fig.93	昆布山谷地区第5地点出土遺物実測図XII (S = 1/2, 1/3, 1/6, 1/8)	122
Fig.94	昆布山谷地区第5地点出土遺物実測図XIII (S = 1/4)	123
Fig.95	昆布山谷地区第5地点出土遺物実測図XIV (S = 1/2)	124
Fig.96	昆布山谷地区第5地点出土遺物実測図XV (S = 1/2)	125
Fig.97	昆布山谷地区第5地点出土遺物実測図XVI (S = 1/2, 1/3, 1/6)	125
Fig.98	昆布山谷地区第6地点・7地点地形図 (S = 1/140)	138
Fig.99	昆布山谷地区第6地点平面図 (S = 1/80)	139
Fig.100	昆布山谷地区第6地点立面図 (S = 1/60)	140
Fig.101	昆布山谷地区第7地点平面図 (S = 1/80)	141
Fig.102	昆布山谷地区第7地点立面図 (S = 1/60)	142
Fig.103	昆布山谷地区第6地点・8地点地形図 (S = 1/130)	144
Fig.104	布山谷地区第6地点平面図・立面図 (S = 1/80)	146
Fig.105	昆布山谷地区第6地点S X 2 5立面図 (S = 1/60)	147
Fig.106	昆布山谷地区第6地点S X 2 5横断面図 (S = 1/80)	147
Fig.107	昆布山谷地区第6地点トレンチ平面図・断面図 (S = 1/40)	148
Fig.108	昆布山谷地区第6地点出土遺物実測図 (S = 1/3, 1/4, 1/6)	149
Fig.109	昆布山谷地区第7地点出土遺物実測図 (S = 1/3)	150
Fig.110	昆布山地区第8地点岩盤平面図・立面図 (S = 1/80)	152
Fig.111	昆布山谷地区第8地点トレンチ平面図・土層断面図 (S = 1/70)	153
Fig.112	昆布山谷地区第8地点石垣平面図・立面図 (S = 1/40)	154
Fig.113	昆布山谷地区第8地点木舞平面図・立面図・土層断面図 (S = 1/20)	155
Fig.114	昆布山谷地区第8地点出土遺物実測図 (S = 1/3, 1/4)	156

表目次

Tab.1	石見銀山遺跡調査一覽	7
Tab.2	昆布山谷地区分布調査出土遺物觀察表	16
Tab.3	昆布山谷地区1地点出土遺物觀察表	25
Tab.4	昆布山谷地区2地点出土遺物觀察表I	43
Tab.5	昆布山谷地区2地点出土遺物觀察表II	44
Tab.6	昆布山谷地区2地点出土遺物觀察表III	45
Tab.7	昆布山谷地区2地点出土遺物觀察表IV	46
Tab.8	昆布山谷地区3地点出土遺物觀察表	51
Tab.9	昆布山谷地区4地点出土遺物觀察表I	68
Tab.10	昆布山谷地区4地点出土遺物觀察表II	70
Tab.11	昆布山谷地区4地点出土遺物觀察表III	72
Tab.12	昆布山谷地区4地点出土遺物觀察表IV	74
Tab.13	昆布山谷地区5地点出土遺物觀察表I	126
Tab.14	昆布山谷地区5地点出土遺物觀察表II	127
Tab.15	昆布山谷地区5地点出土遺物觀察表III	128
Tab.16	昆布山谷地区5地点出土遺物觀察表IV	129
Tab.17	昆布山谷地区5地点出土遺物觀察表V	130
Tab.18	昆布山谷地区5地点出土遺物觀察表VI	131
Tab.19	昆布山谷地区5地点出土遺物觀察表VII	132
Tab.20	昆布山谷地区5地点出土遺物觀察表VIII	133
Tab.21	昆布山谷地区5地点出土遺物觀察表IX	134
Tab.22	昆布山谷地区5地点出土遺物觀察表X	135
Tab.23	昆布山谷地区5地点出土遺物觀察表XI	136
Tab.24	昆布山谷地区6地点出土遺物觀察表	150
Tab.25	昆布山谷地区7地点出土遺物觀察表	150
Tab.26	昆布山谷地区8地点出土遺物觀察表	156

図版目次

巻頭図版1	昆布山谷地区第1地点全景（北西より） 昆布山谷地区第2地点全景（南より）	同 Ⅱ区東壁（北東より） 昆布山谷地区第2地点 Ⅱ区完掘状況（北東より）
巻頭図版2	昆布山谷地区第3地点全景（北東より） 昆布山谷地区第4地点全景（北東より）	同 南西壁（北東より） 同 下層確認トレンチ（北西より）
巻頭図版3	昆布山谷地区第5地点 Ⅱ区（南東より） 昆布山谷地区第5地点 Ⅲ区（南東より）	PL12 昆布山谷地区第2地点 V区完掘状況（南より） 同 完掘状況（西より）
巻頭図版4	昆布山谷地区第5地点 Ⅰ区下層（西より） 昆布山谷地区第5地点 道トレンチ（北より）	PL13 昆布山谷地区第2地点 V区南東壁（西より） 同 V区S D O 2検出状況（北東より）
巻頭図版5	昆布山谷地区第5地点 S X O 2全景（南東より）	PL14 昆布山谷地区第2地点 V区S D O 1検出状況（北西より） 同 S D O 1北東壁（南西より）
巻頭図版6	昆布山谷地区第6地点 S X 2 5全景（南東より）	同 石積遺構検出状況（南西より） 同 S X O 1検出状況（北東より）
巻頭図版7	昆布山谷地区第8地点 S W O 6全景（北より）	同 S X O 1調査後（北東より） PL15 昆布山谷地区第3地点 調査前（南東より） 同 調査完了（北東より）
PL1	昆布山谷地区第1地点 1・2トレンチ完掘状況（南東より） 同 トレンチ完掘状況（北西より）	PL16 昆布山谷地区第3地点 S B O 1検出状況（北より） 同 下層確認トレンチ南北断面（西より） 同 S X O 1検出状況（北より） 同 下層確認トレンチ東西断面東半（北西より） 同 下層確認トレンチ東西断面西半（北西より）
PL2	昆布山谷地区第1地点 1トレンチ完掘状況（北より） 同 1トレンチ東壁坑口（西より） 同 S B O 1検出状況（西より） 同 南壁（北より） 同 南壁東半部（北より）	PL17 昆布山谷地区第4地点 全景（北東より） 同 調査完了（東より） PL18 昆布山谷地区第4地点 調査完了（南より） 同 木根基礎検出状況（南東より）
PL3	昆布山谷地区第1地点 2トレンチS X O 1検出状況（西より） 同 北壁（南西より） 同 在地系陶器密出状況（西より） 同 S X O 1断面（南より） 同 S X O 1完掘（南より）	PL19 昆布山谷地区第4地点 S K O 1掘削状況（西より） 同 東西断面（南より） PL20 昆布山谷地区第4地点 S X O 1調査完了（北より） 同 S X O 1・0 2検出状況（北より） 同 S X O 1・0 2調査完了（東より） 同 S X O 3検出状況（東より） 同 S X O 3調査完了（南より）
PL4	昆布山谷地区第1地点 8トレンチ完掘状況（西より） 同 東壁（西より） 同 北壁（南より） 同 完掘状況（南より） 同 作業風景（西より）	PL21 昆布山谷地区第4地点 S K O 2調査完了（北西より） 同 S K O 2検出状況（北より） 同 S K O 2断面（北より） 同 S W O 7検出状況（西より） 同 調査区東部下層確認（南より）
PL5	昆布山谷地区第2地点 Ⅰ区完掘状況（南西より） 同 レンガ埋設状況（北東より） 同 レンガ埋設状況（南東より） 同 南壁（北西より） 同 西半部南壁（北西より）	PL22 昆布山谷地区第4地点 S W O 1（東より） 同 S W O 1積出し部分（南東より） PL23 昆布山谷地区第4地点 S W O 2（北より） 同 S W O 2（北西より）
PL6	昆布山谷地区第2地点 Ⅱ区完掘状況（南西より） 同 東壁（北より）	PL24 昆布山地区第4地点 S W O 3（北より） 同 S W O 4（北より） 同 S W O 6（東より） 同 S W O 5（北より） 同 S D O 3検出状況（南東より）
PL7	昆布山谷地区第2地点 Ⅱ区下層確認トレンチ完掘状況（南西より） 同 下層確認トレンチ南壁（北西より）	PL25 昆布山地区第4地点 東西トレンチ（東より） 同 東西トレンチ北壁（南西より） 同 東西トレンチ西端部北壁（南より） 同 東西トレンチ東端部北壁（南より） 同 東西トレンチ東半部北壁（南より） 同 南北断面南端部（東より） 同 南北断面中央部（西より）
PL8	昆布山谷地区第2地点 Ⅱ区石組遺構完掘状況（南西より） 同 石組遺構完掘状況（南東より） 同 側面（南西より） 同 東西断面（北東より） 同 木材出土状況（南東より）	PL26 昆布山谷地区第4地点 東西西端部北半（南西より）
PL9	昆布山谷地区第2地点 Ⅲ区完掘状況（南より） 同 Ⅲ区東壁（北より）	
PL10	昆布山谷地区第2地点 Ⅲ区S K O 1完掘状況（北東より） 同 S K O 1検出状況（南東より） 同 S K O 1南北断面（南西より） 同 S K O 2完掘状況（北東より） 同 S K O 3断面（南東より）	
PL11	昆布山谷地区第2地点 Ⅲ区S B O 1南端（南東より）	

同 南北断面中央部 (西より)	同 第3面検出状況 (西より)
同 南北断面北側部 (西より)	同 第3面検出状況 (南西より)
同 北壁 (南西より)	同 第3遺構下面検出状況 (南西より)
同 北壁西端部 (南東より)	PL28 昆布山谷地区第5地点 S D 0 2-②検出状況 (北西より)
PL27 昆布山谷地区第5地点 I・Ⅱ区調査区設定状況 (東より)	同 S D 0 2-②東石検出状況 (北西より)
同 調査区設定状況 (南西より)	同 S D 0 2-②①ベルト上面 (北東より)
PL28 昆布山谷地区第5地点 S X 0 2全壁 (東より)	同 S D 0 2-②①ベルト断面 (北西より)
同 I c区東壁土層断面 (南西より)	PL29 昆布山谷地区第5地点 S X 1 8・1 9検出状況 (北東より)
同 S D 0 2-①完掘状況 (北東より)	同 S X 1 7半載断面 (南西より)
同 S D 0 2-②検出状況 (南東より)	同 S X 1 8半載断面 (南西より)
PL29 昆布山谷地区第5地点 I区完掘状況 (南東より)	同 S X 1 9検出状況 (南西より)
同 S B 0 1検出状況 (南より)	同 S X 1 9半載断面 (南西より)
同 S W 0 2北壁 (北西より)	PL40 昆布山谷地区第5地点 第2面検出状況 (南東より)
同 I d区北壁土層断面 (南東より)	同 第2面検出状況 (南西より)
同 S X 0 5検出状況 (南東より)	PL41 昆布山谷地区第5地点 ユリカス集積部検出状況 (南東より)
PL30 昆布山谷地区第5地点 Ⅱ区完掘状況 (南東より)	同 ユリカス集積部検出状況 (南西より)
同 Ⅱ a区東壁土層断面 (南より)	PL42 昆布山谷地区第5地点 完掘状況 (南東より)
同 Ⅱ c区東壁土層断面 (南より)	同 完掘状況 (北より)
同 Ⅱ c区北壁土層断面 (南東より)	PL43 昆布山谷地区第5地点 ユリカス集積部検出状況 (北東より)
同 Ⅱ d区北壁土層断面 (南東より)	同 ユリカス集積部検出状況 (南西より)
PL31 昆布山谷地区第5地点 S X 0 9、S X 1 0、S X 1 1検出状況 (北より)	PL44 昆布山谷地区第5地点 有機物出土状況 (西より)
同 S X 0 9、S X 1 0、S X 1 1完掘状況 (北東より)	同 有機物出土状況 (北西より)
PL32 昆布山谷地区第5地点 S X 1 0 (南西より)	同 有機物出土箇所土層堆積状況 (東より)
同 S X 1 0溝状部 (西より)	同 有機物出土箇所土層堆積状況 (南東より)
同 S X 1 1完掘状況 (南より)	同 S K 0 3検出状況 (南東より)
同 S X 1 1完掘状況 (東より)	同 S K 0 3完掘状況 (南東より)
同 S X 0 9西半部断面 (南より)	同 S K 0 3完掘状況 (北東より)
同 S X 0 9東半部断面 (東より)	同 S K 0 3北壁石積 (南東より)
同 S X 0 7検出状況 (北より)	PL45 昆布山谷地区第5地点 北壁・東壁北側 (南より)
同 S X 0 7半載状況 (南東より)	同 東壁南側 (南西より)
PL33 昆布山谷地区第5地点 S B 0 2南部面 (南東より)	PL46 昆布山谷地区第5地点 南壁 (北西より)
同 S B 0 2南部床面 (南西より)	同 南壁中央部 (北東より)
同 S D 0 3・0 4検出状況 (南東より)	PL47 昆布山谷地区第5地点 完掘状況 (南西より)
同 Ⅱ c区南半部土層観察用畦断面 (南西より)	同 調査風景 (北西より)
同 S X 0 8検出状況 (南西より)	同 調査風景 (南西より)
同 S X 0 8半載状況 (北東より)	同 南端部同歩 (東より)
同 S K 0 1半載状況 (南東より)	PL48 昆布山谷地区第5地点 東壁 (南西より)
同 S X 1 2検出状況 (北西より)	同 南壁 (北西より)
PL34 昆布山谷地区第5地点 Ⅲ区完掘状況 (南東より)	PL49 昆布山谷地区第5地点拡張部 第1遺構面検出状況 (南西より)
同 S B 0 4南北断面 (南東より)	昆布山谷地区第5地点 S K 0 3検出状況 (南東より)
同 S X 1 6半載状況 (南東より)	PL50 昆布山谷地区第5地点 S K 0 3掘下状況 (南西より)
同 S X 1 5半載状況 (南東より)	同 (西より)
同 S K 0 2半載状況 (南東より)	PL51 昆布山谷地区第5地点 S K 0 3掘下状況 (南東より)
PL35 昆布山谷地区第5地点 S X 1 4完掘状況 (北西より)	同 S K 0 3南壁 (北西より)
同 S X 1 4東部断面 (東より)	同 東西土層断面 (北西より)
同 石見系大塚 (S52) 出土状況 (南東より)	同 南北土層断面① (北東より)
同 調査風景 (北東より)	同 南北土層断面② (北東より)
同 Ⅲ区北拡張区整地面検出状況 (北西より)	同 南北土層断面③ (北東より)
同 瓦出土状況 (北より)	同 南北土層断面④南半 (北東より)
同 西壁土層断面① (東より)	同 南北土層断面④北半 (北東より)
同 西壁土層断面② (東より)	PL52 昆布山谷地区第5地点 南半部完掘状況 (南西より)
PL36 昆布山谷地区第5地点 調査全景 (東より)	同 S K 0 3完掘状況 (南東より)
同 S X 0 2全壁 (東より)	PL53 昆布山谷地区第5地点 S K 0 3下層断面 (北西より)
PL37 昆布山谷地区第5地点 第2面検出状況 (南西より)	同 S K 0 3下層 (S D 0 9) 断面 (北東より)
同 第3遺構面検出状況 (南西より)	同 S K 0 3下層断面 (北東より)
同 第2・3面検出状況 (西より)	同 S K 0 3下層 (S D 0 9) 断面 (南東より)
	同 S K 0 3北面石積み検出状況 (南東より)

- PL54 昆布山谷地区第5地点 SK04完掘状況(南東より)
同 南半完掘状況(南東より)
- PL55 昆布山谷地区第5地点 SK05検出状況(北東より)
同 SK05半載状況(北東より)
- PL56 昆布山谷地区第5地点 SK05半載状況(南東より)
同 SK05東壁検出状況(南西より)
同 SK05土層断面(北西より)
同 SK05南端付近掘込み(北西より)
- PL57 昆布山谷地区第5地点 第4遺構面検出状況(北より)
同 SD08完掘状況(北より)
同 トレンチ北面土層断面(南東より)
同 SD09土層断面(南東より)
- PL58 昆布山谷地区第5地点 SX28検出状況(南西より)
同 SX28検出状況(北より)
同 SX28上層斜削状況(北西より)
同 SX28上層検出状況(南西より)
同 SX28上層斜削状況(南東より)
- PL59 昆布山谷地区第5地点 SX28調査完了状況(南西より)
同 SX28半載状況(南より)
同 SX28底面(北西より)
同 SX28土層断面(南東より)
同 SX289壁(北西より)
- PL60 昆布山谷地区第5地点 SK06検出状況(南東より)
同 SK06掘下げ状況(東より)
同 南北トレンチ西壁土層断面(北東より)
同 調査区北端部斜削り状況(南東より)
同 遺跡説明会
- PL61 昆布山谷地区第5地点第1トレンチ 調査前(北西より)
同 第1遺構面検出状況(東より)
同 第1遺構面検出状況(南東より)
同 瓦葺遺構検出状況(東より)
同 瓦葺遺構検出状況(北東より)
- PL62 昆布山谷地区第5地点 第1トレンチ SW07検出状況(東より)
同 SW07検出状況(北より)
- PL63 昆布山谷地区第5地点 第1トレンチ SW07検出状況(東より)
同 SW07南部検出状況(北東より)
同 SW07北部検出状況(北東より)
同 SW07上圍壁石検出状況(北西より)
同 断削土層断面(北より)
- PL64 昆布山谷地区第5地点 第1トレンチ 西壁(北より)
同 第1トレンチ 西壁(東より)
- PL65 昆布山谷地区第5地点 第1トレンチ 東壁(南より)
同 第1トレンチ 東壁(西より)
- PL66 昆布山谷地区第5地点 第1トレンチ 南壁(北西より)
同 東壁北半(南西より)
同 北端部サブトレンチ東壁(南西より)
同 北端部サブトレンチ西壁(北東より)
同 北端部サブトレンチ 北壁(南東より)
- PL67 昆布山谷地区第5地点 第1トレンチ 完掘(北より)
同 完掘(北西より)
同 SW07・SW08検出状況(北東より)
同 SW08検出状況(北より)
- PL68 昆布山谷地区第6地点 SX20全景(北東より)
同 SX20階段状遺構(南東より)
- PL69 昆布山谷地区第7地点 SX21・22全景(南東より)
同 SX22・23全景(北東より)
- 同 SX22全景(北東より)
同 SX23外観(南東より)
同 SX23内部(東より)
- PL70 昆布山谷地区第6地点 SX25調査前状況(南東より)
同 SX25調査前状況(北東より)
- PL71 昆布山谷地区第6地点 SX25検出状況(南東より)
同 SX25上部(南西より)
- PL72 昆布山谷地区第6地点トレンチ 遺構面(南東より)
同 遺構面(南東より)
同 南壁(北東より)
- PL73 昆布山谷地区第8地点 調査前状況(南東より)
同 調査前状況(南より)
- PL74 昆布山谷地区第8地点 南壁(北西より)
同 第1面検出状況(南東より)
同 第3面検出状況(南東より)
同 第4面検出状況(南東より)
- PL75 昆布山谷地区第8地点第1トレンチ SW06-②検出状況(南東より)
同 SW06-②検出状況(北東より)
- PL76 昆布山谷地区第8地点第1トレンチ SW06-①検出状況(南東より)
同 SW06-①検出状況(北より)
- PL77 昆布山谷地区第8地点第1トレンチ 東壁(南より)
同 東壁(北より)
- PL78 昆布山谷地区第8地点 木舞出土状況①(北東より)
同 木舞出土状況②(北東より)
同 第1トレンチ北端部踏石出土状況(東より)
同 第2トレンチ南壁(北より)
同 第2トレンチ完掘状況(南西より)
同 SW06-②上平坦面検出状況(南東より)
- PL79 昆布山谷地区第1地点出土遺物Ⅰ
昆布山谷地区第1地点出土遺物Ⅱ
- PL80 昆布山谷地区第2地点出土遺物Ⅰ
昆布山谷地区第2地点出土遺物Ⅱ
- PL81 昆布山谷地区第2地点出土遺物Ⅲ
昆布山谷地区第2地点出土遺物Ⅳ
- PL82 昆布山谷地区第3地点・第4地点出土遺物Ⅰ
昆布山谷地区第4地点出土遺物Ⅱ
- PL83 昆布山谷地区第4地点出土遺物Ⅲ
昆布山谷地区第4地点出土遺物Ⅳ
- PL84 昆布山谷地区第5地点出土遺物Ⅰ
昆布山谷地区第5地点出土遺物Ⅱ
- PL85 昆布山谷地区第5地点出土遺物Ⅲ
昆布山谷地区第5地点出土遺物Ⅳ
- PL86 昆布山谷地区第5地点出土遺物Ⅴ
昆布山谷地区第5地点出土遺物Ⅵ
- PL87 昆布山谷地区第5地点出土遺物Ⅶ
昆布山谷地区第5地点出土遺物Ⅷ
- PL88 昆布山谷地区第5地点出土遺物Ⅸ
昆布山谷地区第5地点出土遺物Ⅹ
- PL89 昆布山谷地区第5地点出土遺物Ⅺ
昆布山谷地区第5地点出土遺物Ⅻ
- PL90 昆布山谷地区第5地点出土遺物Ⅼ
昆布山谷地区第5地点出土遺物Ⅽ
- PL91 昆布山谷地区第5地点出土遺物Ⅾ
昆布山谷地区第5地点出土遺物Ⅿ
- PL92 昆布山谷地区第6～8地点出土遺物
昆布山谷地区第6地点出土遺物



第1章 遺跡の位置と概要

第1節 遺跡の位置と概要

第1項 石見銀山遺跡の位置と概要 (Fig. 1)

石見銀山遺跡は、鳥根県中央部の大田市に位置する銀山遺跡である。遺跡の中心部は日本海から直線距離で約6kmの内陸部に位置する。遺跡の周辺には大江高山火山群の一角である仙ノ山や、要害山などの海拔400～500mの山々が連なり、山間には深い谷と水系が発達している。山地から海岸に至るまでに平地は極めて少なく、銀を運んだ街道は中小の丘陵や台地、谷間の水系の間を縫って設けられている。港と港町が位置する沿岸部にはアス式海岸が展開し、港の奥部には狭い谷が発達している。

本遺跡は16世紀から20世紀にかけて鉱業活動が行われた銀山跡と銀山町を中心に、周囲の山城跡や銀山から港までを結ぶ2本の街道、銀鉱石・銀の積出しや銀山に必要な諸物資を搬入した港湾などからなる複合遺跡である。銀の生産から搬出に至る銀山開発の社会機構及び社会基盤施設の総体を示すこれらの良好な遺跡群は、銀山町や港湾などの建造物群とともに、当時の土地利用の在り方と機能の一部が現在にも伝達されつつ、自然と共生した顕著な普遍的価値を持つ文化的景観の事例として、平成19(2007)年にユネスコ世界遺産に登録された。

第2項 調査の経過 (Tab. 1)

石見銀山遺跡の発掘調査は、大田市教育委員会が昭和58(1983)年度から開始した。昭和60(1985)年度には鳥根県教育委員会によって『石見銀山遺跡関連遺跡分布調査報告書』が刊行され、石見銀山遺跡とその周辺の銀山関連遺跡の分布が明らかとなった。昭和61(1986)年度には県教委によって『石見銀山遺跡総合整備計画策定報告書』が刊行され、拠点箇所での発掘調査を継続することが、石見銀山の歴史と遺跡を明らかとしていく上で重要であるという指針が示された。その指針に基づき、昭和63(1988)年からは県教委と市教委が共同で、平成18(2006)年からは市教委が主体となって毎年継続して発掘調査を実施している。

平成8(1996)年度からは石見銀山遺跡総合調査が開

始し、平成14(2002)年度にはその成果として、石見銀山遺跡の広域的な保存を目的とした史跡範囲の追加指定が行われた。その後、調査の進展と共にさらに史跡範囲の拡大と保護措置が図られ、平成20(2008)年には、史跡指定総面積は389haとなった。これまでの調査地点と調査の経過はTab. 1のとおりである。

第2節 調査方針及び指導・公開関係

【調査指導】

石見銀山遺跡の発掘調査は、平成8年度に組織された発掘調査委員会で「採掘と製錬の技術体系の解明を調査の柱とし、400年に及ぶ銀山都市の実態を明らかにすることを目的として立案され、委員会の指導の下で発掘調査が実行されてきた。発掘調査委員会は、調査・整備の進展に伴って平成14(2002)年には「石見銀山遺跡調査整備委員会」、平成20(2008)年には「石見銀山遺跡調査活用委員会」と改組された。さらに、平成26年度には石見銀山の調査・整備の全般を統括する「石見銀山遺跡調査整備活用委員会」と、考古学・文献史学・自然科学などの専門家を中心とする調査の専門部会である「石見銀山遺跡調査専門委員会」となり、それぞれの指導の下で発掘調査を実施した。

調査の基本方針は、平成25年度までは従来の石見銀山遺跡におけるものを踏襲し、遺構の破壊を最小限に留めるために調査範囲は極力小範囲とした。また、遺構面の調査は基本的に第1遺構面までとし、必要に応じて部分的に下層確認を行うこととして実施した。

昆布山谷は文献史料や石造物などによって、石見銀山の中でも古くから利用されていたことが確認されており、発掘調査によっても石見銀山最盛期の様相を具体的に明らかにできるような資料の検出が期待されていた。しかし、調査によって、谷の広い範囲が近代まで断続的に利用されていたことが明確になるとともに、それらの遺構が谷筋には良好に残っていることが明らかとなっていった。そのため、可能な範囲で深くまで掘り下げて古い時代の資料をえることと、調査範囲・深度を最小限に止めて遺構の保存を図る従来の調

査方針と両立させる方法を提案する必要があった。平成26年度からは、調査範囲を広くして遺構の分布や残存状況を確認し、遺構への影響が少ない場所をできるだけ広く確保して深く掘り下げることとした。この調査方針により、平成26年度から平成29年度までの4カ年にわたって実施した第5地点では近世初期の土地利用や鉱山活動に関連する遺構が検出され、江戸時代を通しての谷の利用や活動の変化、景観の変遷を追うことができる資料が得られた。ただし、広い範囲において上位の遺構を確認してから下層の調査に入るこの方針では、調査に膨大な時間を要することとなった。昆布山谷の発掘調査は中長期計画では平成22(2010)年から平成27(2015)年の6か年としていたが、2年延長して平成29(2017)年まで調査を行なった。

【発掘調査】

石見銀山遺跡は、前述したように中世から近代まで利用された鉱山遺跡であり、その痕跡が良く残っていることや、当時の景観が現在にも引き継がれていることなどが評価され、世界遺産に登録されている。本遺跡においては近世・近代も世界遺産として重要な構成要素であるため、調査対象として扱っている。掘り下げは表土以下全行程を人力によって行い、遺構面においては小型の三角ホーヤスコップ、刷毛などを用いて精査を行なった。出土遺物の取上げにあたっては、トレンチや調査区を複数設定した調査地点ではそれぞれのトレンチ・調査区別で、堆積層ごとに行った。

また、平成28・平成29年度の調査では、大田市と島根大学の包括的連携に関する協定に基づき、島根大学考古学研究室と共同で調査を行った。

【自然科学分析】

自然科学分析については、石見銀山遺跡総合調査の1分野であり、石見銀山科学調査部会で主に取り扱い、報告書も刊行されている。これまでの調査では製錬技術の解明を主な目的として、本谷・安原谷ではユリカスの分析や、「貴鉛」の成分分析などを行なった。また、本間歩上においては古環境復元を目的に花粉分析を実施した。後の章で詳述するが、昆布山谷地区の発掘調査では、ユリカスの集積や炉跡・鍛冶場遺構などが検出され、成分分析によって選鉱や製錬に係る情報を得

られる可能性のある資料が得られた。そのため、発掘調査では可能な限り資料のサンプリングを行ない、得られたサンプルについては委員会の指導の下で自然科学分析を実施した。

【公開事業】

調査成果については、現地見学会の開催や講座等での発表、石見銀山世界遺産センターでの展示等により、公開を行なっている。昆布山谷の発掘調査に関連する公開事業は以下のとおりである。

平成22年度 発掘調査現地説明会(11月14日)

平成26年度 石見銀山世界遺産センターミニ企画展(7月2日～8月31日)、ここまでわかった石見銀山(6月7日)、発掘調査現地説明会(11月8日)、第3回埋蔵文化財専門研修(2月20日)

平成27年度 第4回石見銀山研究会(6月20日)、発掘調査現地説明会(11月14日)、石見銀山ガイドの会講習(11月19日、26日)

平成28年度 発掘調査現地説明会(9月14日、11月26日)

平成29年度 石見銀山世界遺産センターミニ企画展(7月2日～8月31日)、発掘調査現地説明会(11月8日)

平成30年度 石見銀山世界遺産センター情報コーナーミニ展示(10月19日～)、公開講座ここまでわかった石見銀山(10月27日)

第2章 調査の経緯と経過

第1節 昆布山谷地区の概要

昆布山谷は、銀山の核である仙ノ山の北西に位置している。谷は、ほぼ北から南にかけて走っており、全長は約600mである。谷の入口である北側は、東西に走る柳畑谷と接し、東には尾根を挟んで昆布山谷と平行して南北に出土谷が走る。谷の入り口付近には佐毘売山神社が、谷筋には長楽寺跡・虎岸寺跡などの寺社跡があり、周辺の尾根上には墓地が点在している。墓石の紀年銘は天正年間(1573～1593)まで遡るもの

もあることから、古くから利用されていたことが窺われる。

谷底の幅は約30～40mで、両脇は岩盤がむき出しになっている。岩盤には「新横相間歩」や「新横相上坑」・「村上坑」などの大小さまざまな坑口があり、70近くを数える。また、岩盤を掘り込んだ柱穴や祠、階段などもある。

谷の入口から南に400m程度までは、中央に道と水路がある。道と水路は平行に走っており、石組で作

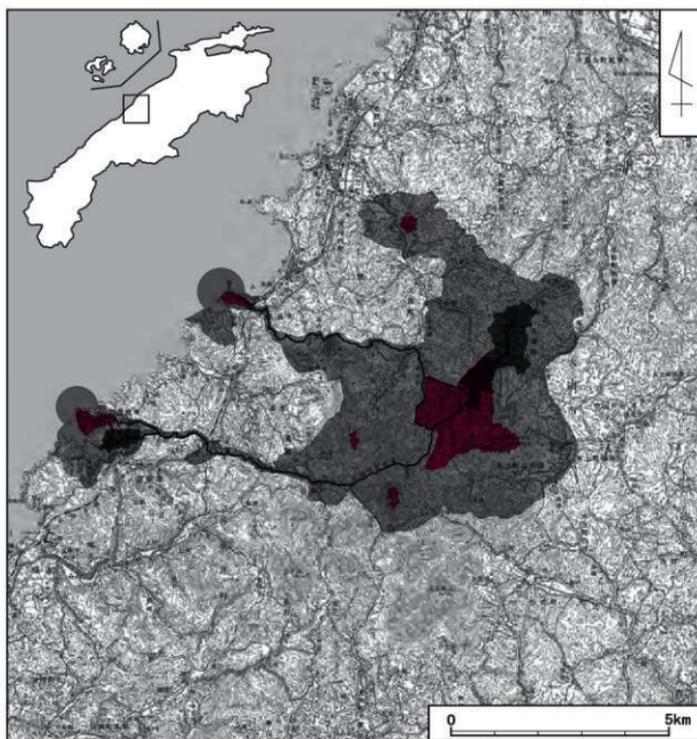


Fig. 1 石見銀山遺跡位置図 (S = 1 / 100,000)

られている。また、その範囲には谷の両側に段状の石垣が組まれている。これは敷地割の石垣とみられ、昆布山谷の集落跡と考えられる。ここより南は水路がなく、急勾配の道を登って西側の尾根上の字名「本馬場」に達する。本馬場には、70 m四方の拓けた平坦面がある。ここで谷は終わりが、道はそのまま急勾配で続き、萩峠の番所跡推定地に到着する。ここを峠として木上町の三久須方面に下る。

昆布山谷は、文献史料にも数多く登場している。例えば、『銀山旧記』の「天文八年（中略）昆布山にて銀を吹」や、『高野山浄心院過去帳』の「一、昆布山（中略）天文21年」など、室町時代後期の記述もみられる。また、『安田家文書』には江戸時代中期の長楽寺周辺の様子がわかる絵図も残っている。近代の様子が分かる資料としては、明治20年から大正12年の休山まで石見銀山の開発を行なった藤田組（現、DOWAホールディングス）が、鉱山経営に関わる書類の控えや記録を綴った「要書録」がある。要書録には、開発した土地の番地や建物の規模、年代などが詳細に記録されている。発掘調査では、この「要書録」に記述のある建物に比定できる遺構もいくつか検出されており、調査における重要な資料となっている。

以上のように、昆布山谷は石見銀山の開発初期から隆盛、衰退を経て近代の再開発までと密接に関わっており、当時の鉱業活動や鉱山生活を知る上で重要な谷といえる。

石見銀山道跡内のこれまでの発掘調査では、佐毘売山神社を挟んだ東側の出上谷地区において、18世紀後半の銅製錬に関する遺構が確認されている。また、昆布山谷の北側を東西に斜交する柳畑谷地区では、明治時代の建物が確認されているほか、16世紀後半に遡る遺構や遺物が検出されていた。一方で、出上谷地区と柳畑谷地区の狭間は調査が未着手であったことから、昆布山谷地区の調査により、佐毘売山神社周辺における鉱業活動や生活の様相を把握できる可能性があった。そのため、長期計画にもとづき、平成22年度より発掘調査に着手した。

第2節 昆布山谷地区の調査の経緯

昆布山谷地区の発掘調査は平成22（2010）年度から平成29（2017）年度までの8年間にわたって実施した。調査箇所は、谷筋の道を中心として東西に増状に広がる平坦面で、第1地点から第8地点までの調査地点を設定して発掘調査を実施した。調査地点は、調査目的や調査の進捗に応じて選定し、都度委員会の指導・承認を受けた。各調査地点の位置は、Fig. 8に示した。年度ごとの調査概要は以下のとおりである。

【平成22年度】

長期計画に沿い、昆布山谷地区の発掘調査に着手した。平成22年度の調査箇所は佐毘売山神社の裏裏に位置する第1地点（調査時は佐毘売山神社下地点と呼称）と、谷筋をやや上った個所に位置する第2地点（調査時は佐毘売山神社下地点と呼称）である。第1地点は、丘陵の露出している岩盤に坑道が開いている。また、その坑口の北側の岩盤には長方形の加工痕がみられ、一方、南側には地表面上に石積みを確認できていた。近代以降に土地の変更を受けている可能性もあったが、深層には古い遺構が存在する可能性も高いとも考えられたため、トレンチを設けて調査を行った。調査によって、坑口付近で石積みや建物跡などが検出された。第2地点では、平坦面上に設定したトレンチより、建物遺構が検出された。平成22年度時点では、この建物跡については、出土遺物より近代に比定できると考えられたものの、詳細は不明であった。

【平成23年度】

平成22年度に引き続き、第1・2地点の調査を実施した。第1地点では、平坦面の南側における遺構の有無を確認するため、8トレンチを設定した。また、8トレンチ内において下層の堆積状態を確認した。

第2地点の調査では、平成22年度の調査によって建物跡と溝跡が検出され、出土遺物から近代と想定されていた。一方で、トレンチによる部分的な調査であったため、規模と平面形、用途の把握が課題として残っていた。そのため、平成23年度の調査では、一部のトレンチを拡張したほか、新たに調査区を設定して発掘調査を実施した。

【平成24・25年度】

平成22・23年度の調査状況を踏まえ、今後の調査

方針および調査地点選定のための資料を得ることを目的として、谷全体分布調査を実施した。分布調査では、昆布山谷の谷筋における平坦面の広がりや、各平坦面の遺構の遺存状況、遺物の散布状況を確認することを目的とした。分布調査は平成24年度から平成25年度の間で、主に下草の少ない4月から6月にかけて実施した。分布調査の内容および成果については第3章で詳述する。

分布調査の成果を基として、平成24年度には第3・4地点の調査に着手した。第3地点は昆布山谷でも上流に位置する。現在では山林として登記されており、近年は生活利用がされていないこともあり、調査活用委員会においても近世以前の遺構が残存していることが指摘された地点である。発掘調査では、上層で幕末以降とみられる建物遺構が検出されたため、下層まで確認することができなかった。

第4地点は、分布調査によって19世紀以降の遺物が確認されなかった地点である。また、分布調査と並行して、関連する絵図・史料を改めて検討したところ、本地点は明治期には山林として登記されており、藤田組に関連する施設が設置された記録のないことが確認された。そのため、近世までさかのぼる遺構の検出が期待された。

平成24年度の調査では、設定したトレンチ内で比較的規模の大きい木造構築物が出土したこともあり、遺構面までは検出できなかった。そのため、平成25年度に調査範囲を拡大し、遺構全体の様相を把握すること、遺構の分布状況によっては下層まで追求することを目的として調査を実施した。また、分布調査と並行して実施した藤田組関連資料の確認作業において、第2地点で検出されていた建物跡SB01の、調査区の番地と建物の規模が藤田組の「要書録」に記載されている「選鉱場」と一致することが確認された。SB01は、要書録に記載のある選鉱場と同一の規模であるものの、建物の形が一部未確認であった。そのため、建物の正確な平面形を把握するため、平成24年度にⅢ区の西側にⅣ区を設定して追加調査を実施した。追加調査では、礎石そのものは検出されなかったものの、礎石の抜き取り痕とみられる掘り込みが検出され、建物の平面形を復元するための成果が得られた。

【平成26年度】

第2節でも述べたように、昆布山谷地区の調査では銀山開発初期の遺構検出が期待されていた。しかし、昆布山谷は近代まで断続的に利用されていたこともあり、第1～4地点では、上層で幕末～近代の遺構が検出された。そのため、当初の調査目的であった銀山開発初期の堆積層まで掘り下げることは困難であることが、平成25年度までの調査によって判明しており、下層遺構の追及に当たっては上層に残存する遺構の保存が課題となっていた。第5地点の調査に着手した平成26年度の調査では、調査地点の広い範囲に調査区(第Ⅰ～Ⅲ区)を設定し、遺構の広がりや、残存状況の確認を行なった。

調査成果を基に、地表面上に遺構がなく、かつ第Ⅰ・Ⅱ区の境となる石垣にも影響が少ない位置を選んで下層確認を行なった。下層確認により、第5地点Ⅰ区西側で検出された岩盤加工遺構(SX02)は下層にも続いており、江戸時代の初頭から利用が行われていた可能性が想起された。そのため、次年度以降には下層確認トレンチの調査成果を基に、掘削範囲を広げることとした。

【平成27年度】

平成26年度の調査成果を基に、岩盤加工遺構SX02の東側に幅2m程度の下層確認トレンチを設定して調査を実施した。発掘調査によって、SX02の中でも地下に埋もれていた範囲が確認でき、岩盤の一部を利用したが跡SX17～19も検出された。トレンチ断面では複数の硬化面が確認され、今の地形が形成される以前の活発な活動の様相が窺われる資料が得られた。そのため、次年度には調査範囲をさらに広げ、SX02の前面に広がる平坦面の利用状況を明らかにすることとした。また、谷筋で岩盤加工遺構の所在が確認された箇所を対象に、新たな調査地点として第6・7地点を設定し、遺構の確認と周辺地形の測量を行なった。本年度の調査によって、第6・7地点における岩盤加工遺構の分布状況及びその内容を把握することができた。さらに、測量調査により、土中に埋もれていた巨大な岩盤加工遺構(SX25)の所在も確認できたが、期間の都合もあり本格的な調査は次年度に持ち越しすることとした。

【平成 28 年度】

平成 27 年度に引き続き、第 5 地点・第 6 地点の調査を実施した。加えて、平坦地と道とのつながりを確認することを目的として、平成 22 年度から新たに第 8 地点を設定し、発掘調査を行なった。

第 5 地点では、平成 27 年度よりも調査面積を広げて発掘調査を実施したところ、本地区の第 3 遺構面上には大量のユリカスが廃棄されており、選鉱に関連する可能性のある遺構（S X 03）の一部も検出された。

第 6 地点では、岩盤加工遺構（S X 25）が検出された。S X 25 は岩盤に階段跡や溝、柱穴、地蔵を置くための掘り込みなどが加工された遺構で、昆布山谷でこれまでに確認された岩盤加工遺構の中でも、規模・内容とも充実したものである。検出状況や文献史料における記録より、尾根上の長楽寺へ向かう参道の一部と考えられる。

第 8 地点では、かつての道と平坦面を区画していたとみられる石垣（S W 06）が検出された。

【平成 29 年度】

平成 28 年度に引き続き、第 5 地点第 1 区の調査を実施した。平成 28 年度に一部が確認されていた、選鉱関連遺構（S X 03）について、調査範囲を広げて遺構全体の検出をはかったほか、江戸時代前半の遺構面上で出土した大量のユリカスについて、一部をサンプリングしながら掘り進め、さらに下層の様相についても追及した。また、第 5 地点東側の道筋にトレンチを設定して石垣や道跡の広がりを確認した。

Tab. 1 石見登山道跡調査一覧

年度	西暦	調査	調査地点	備考
昭和58年	1983	発掘調査	①代官所跡、④蔵泉寺口番所跡	石見登山道跡総合整備計画の策定
60年	1985	分布調査	大田市、温泉津町、仁摩町、邑智町、赤来町、大和村、羽須美村に所在する石見登山道跡	
63年	1988	発掘調査	⑨龍源寺開歩	
平成元年	1989	発掘調査	蔵泉寺口番所跡、②向陣屋跡、⑧上市場	
2年	1990	発掘調査	蔵泉寺口番所跡、⑥大龍寺谷、③旧河島家	
3年	1991	発掘調査	⑤下河原吹屋跡	
4年	1992	発掘調査	⑦山吹城跡下屋敷	
5年	1993	発掘調査	⑫石銀千畳敷	
6年	1994	発掘調査	石銀千畳敷	
7年	1995	発掘調査	石銀千畳敷	
8年	1996	発掘調査	⑬石銀藤田	総合調査開始
9年	1997	発掘調査	⑭宮ノ前、⑬出土谷、石銀藤田	
10年	1998	発掘調査	⑮柳畑谷、石銀藤田、⑬於紅ヶ谷、⑫竹田	
11年	1999	発掘調査	宮ノ前、石銀藤田、出土谷、竹田、	
12年	2000	発掘調査	宮ノ前、石銀藤田、出土谷、竹田	
		分布調査	相子谷地区	
13年	2001	発掘調査	宮ノ前、於紅ヶ谷、出土谷、竹田、⑯本谷、町並み保存地区(阿部家、熊谷家)	
14年	2002	分布調査	宮ノ前、於紅ヶ谷、出土谷、竹田、本谷、町並み保存地区(阿部家、熊谷家)	
15年	2003	発掘調査	宮ノ前、下河原下組、出土谷、本谷	
16年	2004	分布調査	宮ノ前、本谷、港湾集落、町並み保存地区	
17年	2005	発掘調査	本谷、町並み保存地区(岡家)	
18年	2006	発掘調査	本谷、町並み保存地区(宗岡家)	
19年	2007	発掘調査	⑰安原谷、下河原、町並み保存地区(渡辺家)	世界遺産登録
20年	2008	発掘調査	安原谷、町並み保存地区(柳原家、渡辺家)、⑱清水谷製錬所跡	
21年	2009	発掘調査	安原谷、本谷、町並み保存地区(杉谷家、渡辺家)、清水谷製錬所跡	
22年	2010	発掘調査	安原谷、本谷、昆布山谷	
23年	2011	発掘調査	⑲昆布山谷、石銀、町並み保存地区(旧大住家)	
24年	2012	発掘調査	昆布山谷	
25年	2013	発掘調査	昆布山谷	
26年	2014	発掘調査	昆布山谷、町並み保存地区(宗岡家)	
27年	2015	発掘調査	昆布山谷、町並み保存地区(宗岡家)、⑳豊栄神社	
28年	2016	発掘調査	昆布山谷、町並み保存地区(宗岡家、金森家)	
29年	2017	発掘調査	昆布山谷、町並み保存地区(金森家、福石家)、豊栄神社	

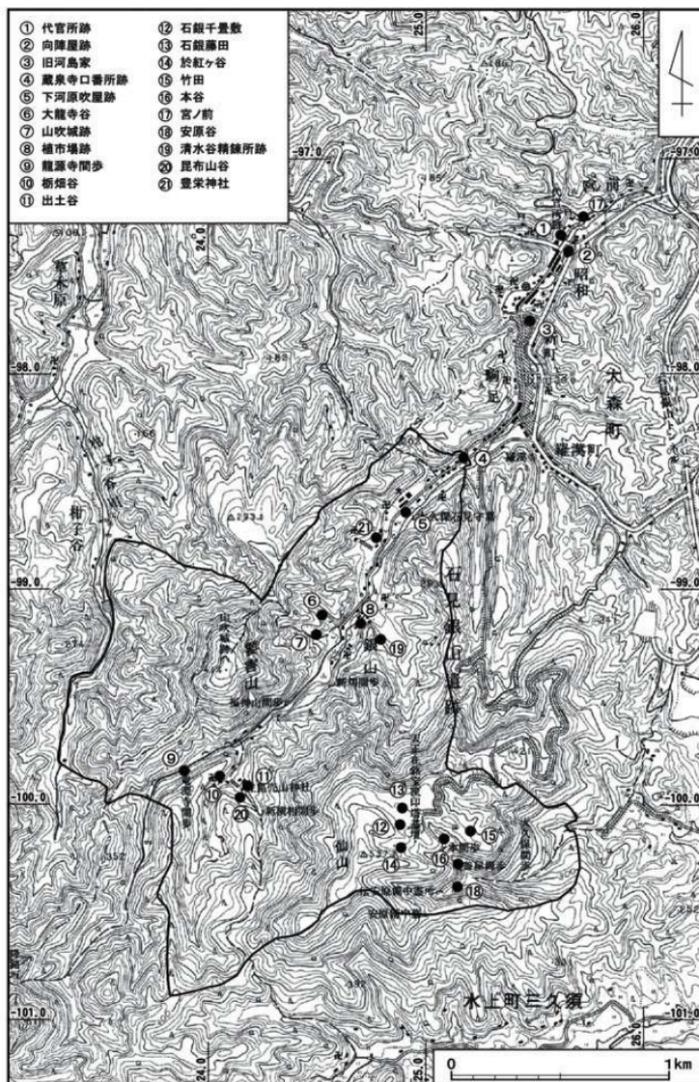


Fig. 2 石見銀山通跡調査地点位置図 (S = 1 / 20,000)

第3章 分布調査

第1節 分布調査の概要

第1項 調査の目的

昆布山谷地区の発掘調査は、石見銀山最盛期の遺構確認を大きな調査目標として平成22年度に着手した。しかし、平成22年度と平成23年度に調査を実施した第1地点と第2地点ではいずれも上層から新しい時代の遺構が検出されたことにより、下層の確認が困難であった。昆布山谷は、文献史料によって居住が確認できる16世紀半ばから、藤田組による開発が行われた近代まで断続的に利用されており、遺構が重層的に堆積していたことがその要因と考えられた。そのため、平成23年度には、谷全体における遺構・遺物の分布状況を確認することと、近代における土地の利用状況を明確とした上で調査地点を選定することが指導された。指導を受け、翌平成24(2012)年4月から翌25(2013)年の6月までの間で、主に比較的古木の少ない4月から6月の間に分布調査を実施した。

第2項 調査範囲 (Fig.3)

分布調査は、昆布山谷の大部分を対象として実施した。具体的な範囲は、北は柳瀬谷に接する場所から、南は尾根上の字名「天井」といわれる平坦部までの谷筋周辺も含めた範囲までである。この範囲において東西の主要な両平坦面に、それぞれ番号を付けて整理した。

第2節 平坦面の様相 (Fig.4～6、Tab.2)

第1項 東平坦面

【遺構】

谷の東側に広がる平坦面の中には、[東-14] [東-23] など規模が広い箇所がある。これらは、明治期に藤田組の施設があったと推定される場所で、ズリによる盛土・整地が顕著にみられる。

例えば、[東-14]は明治10年代の切図では耕地地となっているが、藤田組の「要書録」によると新横相坑口見張所を建設した場所で、現地には石列やズリ山が残っていた。[東-23]は村上坑見張所と銀山部開口掛詰跡で、現地には大型の礎石や石積みがある。

道沿いの石垣は積み方の様相から比較的古い時期に構築されたとみられるが、この平坦面の半ばで切れている。ここより北にある[東-22]には、ズリによって平坦面が形成されており、藤田組による開発の痕跡とみられる。[東-24]は、「要書録」に記載のある村上坑の坑夫上り小屋及び鍛冶舎跡と推定できる地点で、石垣と埋設機が残っている。なお、[東-22]から[東-24]までは明治10年代の切図では山林扱いとなっている。Fig.3の図には記載されていないが、南の尾根上の字名「天井」の平坦面は「要書録」から焼骨跡と推定され、現地には礎石と石積みがある。このように、明治10年代には使用されていなかった土地を、藤田組が借用あるいは買収し、坑口から搬出されたズリの投棄場として利用していたとみられる。他の遺構としては、[東-26]には用途不明のコンクリート構造物がある。

[東-31] [東-36]の平坦面には、間歩が多く、西側に比べて流土の堆積も顕著である。18世紀初頭の間歩改帳には「新横相」「村上山」「正道院山」「切懸間歩」「斎賀山」などの名前がでてくる。「新横相」と「村上山」は現在でも残っており、「正道院山」「切懸間歩」「斎賀山」は字名として、ともに東側に存在する。昆布山谷において主要な坑口が東側に集中していることや、東側には坑口が西側の5倍近く所在していることは、谷の東西の利用状況を示す特徴として指摘できる。

【遺物】 (Fig.4)

採集した遺物の数は少なく断定はできないが、近代に比定できる遺物が圧倒的に多いFig.4の1から7は、藤田組の施設跡とみられる[東-14]とその周辺の平坦面で採集した遺物である。1・2は石見焼の土瓶で、「組大森」と「鑛」の字が見える。3は石見焼の碗で「鑛」の字がある。これらは、藤田組の大森鉱山所の関連する遺物とみられ、前述のとおり現地の状況と矛盾しない。4は産地不明で「新町於色」の文字がある丸碗である。6は、近代の瀬戸焼と思われる香炉で、高台内に銘がある。外面には折枝椿様と「香」

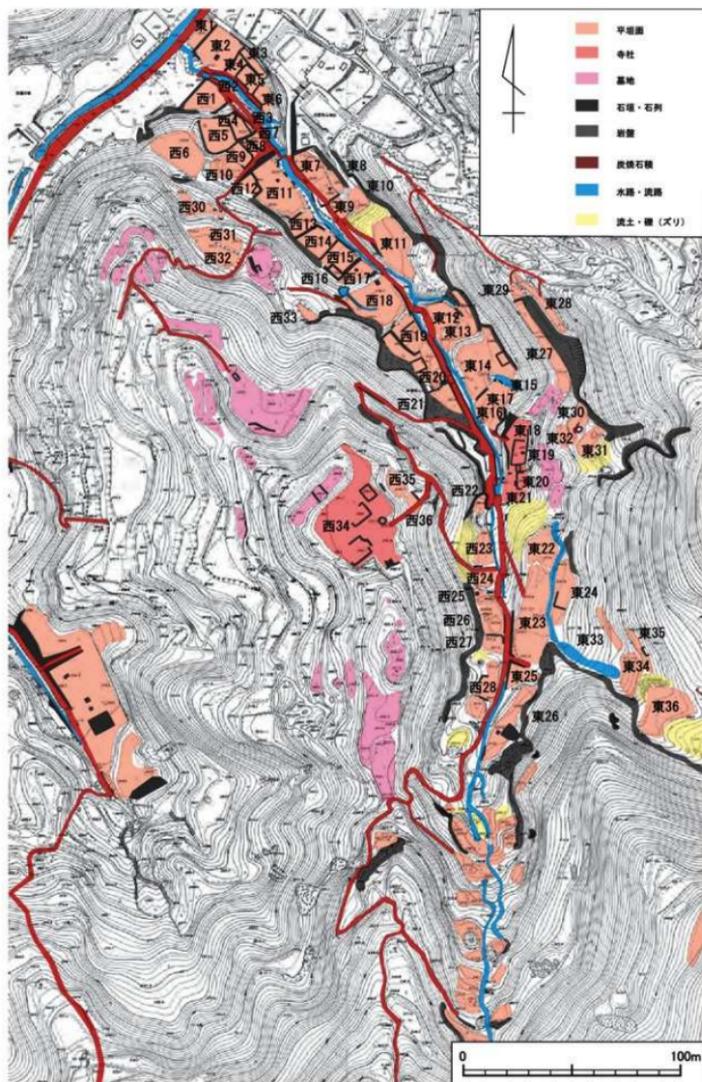


Fig. 3 昆布山谷地区平坦面番号表示図 (S = 1 / 2,000)

の字が読み取れる。口縁部が欠けており、煙草蓋として使用されていた痕跡の可能性がある。7は石見焼の土瓶で耳が付く。5は肥前磁器の広東碗で、見込みに「寿」の字がある。本文に掲載していないが、[東-22]でも藤田組の「田」と思われる文字の入った石見焼の小片が見つかっている。この場所も、明治期において藤田組がズリにより盛土を施したとみられる。

[東-26]の用途不明のコンクリート構造物が残る平坦面では、時期不明のガラス片を大量に採集した。

第2項 西平坦面 【遺構】

西側尾根上には、長楽寺跡や妙本寺跡墓地などに関連する石造物や、それらに伴う岩窟や参道跡がある。字名も「サンマイ原」や「寺ノ下モ」といった信仰に関連する地名が多い。

地表面上で確認できる遺構としては、[西-19]には上段に上がる階段状岩盤加工が、[西-22]には内部に彫痕、外部に削岩跡の痕跡をともなう岩窟がある。

[西-33]は18世紀代の史料によると荒神と云われ、現地には岩盤を加工した祠と燈籠が残っている。この平坦面には坑口もあり、平成10年度版の岡歩調査台帳には「荒神間歩」という名が付けられている。

[西-34]は長楽寺跡とみられる。現地は切土による大規模な平坦面で、4基の建物跡があるほか、その付近には大量の瓦が山積みで放置されている。

このように、西側は生活あるいは信仰に関する要素が多く、採掘の痕跡が多い東側とは様相が異なる。

谷奥の尾根上には、広い平坦面があり、字名を「天井道ノ下タ」という。地表面上には、粗末な石積みで不定形に区割りされた痕跡が残っている。これらの平坦面は、明治10年から20年代の切図に畑として表示されているが、戦後も畑として使用されていたことが聞き取りによって判明している。現地には水溜用と思われる石見系の陶器甕が、半分に埋もれた状態で数個残っていた。また、昭和まで利用されていたことを示す資料として、土地境のコンクリート杭も残っていた。西側の特徴としては、谷の東側に比べて敷地が狭いことや、石垣によって土地が区画されていることなどが挙げられる。また、現状の道の上や側溝には、道を横断する石列や石垣の一部のみ見えていた。

【遺物】(Fig.4～6)

各平坦面とも平均的に遺物が採集できた。採集できた遺物は近世でも後半の資料が多く、近代の資料を中心とする東側平坦面よりもやや遅る傾向がある。

特徴的なものとして寺社関連の遺物が多く、[西-19]や[西-23]・[西-27]、長楽寺跡である[西-34]などでは仏飯器や花生、陶製狛犬の脚が採集された。11は、[西-19]で採集された肥前磁器の仏飯具で、江戸期後半とみられる。高台内は無釉である。[西-23]では、34の陶製の狛犬の脚を採集した。外面には来待輪がかけられ、内部は空洞ではなく詰まっている。[西-27]では、12は肥前磁器の仏飯器である。13は肥前の青磁花生で、龍耳が付く。[西-34]の長楽寺跡では、石見焼の皿(20)や花生(14)が採集された。14については、腰部に蝶耳が付き、外面には灰釉、内面には来待輪が施されている。高台内は無釉で、「嘉永四 亥七月吉□ 石州福光本領 白谷勘場 施主 鶴太郎」の刻字が施されている。また、長楽寺跡で採集されたものと、[西-22]の平坦面で採集されたものが接合したことから、[西-34]の長楽寺跡から東側下段の[西-22]の平坦面に流れ込んだ可能性が高い。さらに底部の刻字より、嘉永4年以降に流入したとみられる。

どの平坦面でも瓦を採集している。採集された瓦は、いぶし瓦、黒赤褐色・赤褐色の来待輪瓦の3種類である。中には、巴付唐草軒瓦[西-16]や仁厚宅野の窓印が入った瓦[西-20]などもあった。

その他、日用雑器類としては肥前や備前の碗・皿・鉢・甕などの陶磁器を採集しており、いずれも18世紀代から19世紀前半とみられる。9は肥前磁器の兵器手碗で石見銀山遺跡4～5期に相当する。10は肥前磁器の丸碗で、判読できないが文字が記入されている。15・16は肥前磁器の染付碗である。17も肥前磁器の染付碗で、2種類の七宝文が施されている。21は肥前磁器の染付碗の蓋で、内面に四方禪文がある。22は肥前磁器の外青磁の碗で、内面に四方禪文と、見込みにコンニャク印判による五弁花文がある。23は青花の皿である。24は肥前陶器の瓶である。高台は列り底で、二次比熱の痕跡が認められる。25は須佐焼の壺で、灰釉が施され、高台内にカンナ削り痕

がある。26は石見焼の甕でボタンが付く。27は産地不明の陶器の鉢で、銹軸が施されている。口縁は丸みを帯び、内部に肥厚する。また、胎土には砂粒を含む。口縁内側にはナデ調整が施されている。28は石見焼の鉢である。27と同じく、口縁内側にはナデ調整が施されている。29は産地不明の鉢で、胎土に砂粒を含み、色調は黒灰色である。口縁は外側に巻き込む形状になっている。内面にナデ調整が施されている。30は肥前磁器の草文様の染付徳利で、高台は割り底である。31は石見焼の草花文の絵徳利である。32は肥前陶器の片口鉢で、白土化粧の刷毛目文様が施されている。35は須佐焼の鉢で、見込みに胎土目の痕、高台内にはカンナ削り痕がある。36は肥前陶器の甕で、外面肩には波紋状の文様が、内面には叩き痕がある。32と36はいずれも志田西山1号窯で焼かれたとみられる。

栴檀谷に近い〔西-10〕では、陶磁器類とともに8の小型のジョッキ型ルツボを採集した。外面に〔41〕の番号が付き、内面は付着物が癒着しており使用済と思われる。33の明治期の小学校でノートの役目をはたしていた石盤で、両面に方眼の目が刻まれている。

〔西-33〕の荒神の平坦面では、18の蛸唐草文様の肥前磁器の瓶が採集された。

〔西-34〕の長楽寺跡では、前述のとおり寺社関連の遺物とともに、19の石見焼の羽釜のミニチュアも採集している。外面は来待桶がかけられ底部には糸切痕がある。

〔西-1〕から〔西-18〕では、近世の遺物とともに近代の遺物も採集されたが、〔西-19〕から南の山手側では近代の遺物は採集されなかった。明治10年代の切図においても、ここを境に南側は表記されていない。このことから、〔西-18〕までは近代に入っても継続的に利用されていたが、それよりも南は利用されなくなった可能性がある。

第3節 分布調査の成果

分布調査で採集された遺物は、西側の平坦面においては18世紀以降のものがほとんどを占めており、それ以前の遺物は少なかった。そのため、現在の昆布山谷の景観や土地区画は18世紀代に形成されたと可

能性が高い。その後、水害などに応じて、小規模な整備や区画の変更は行われたかもしれないが、明治10年代までは比較的古い状況をとどめていた可能性が高い。明治20年代に入ると、使用されなくなって山林扱いになっていた狭い区画の土地が、藤田組の再開発によって部分的に大規模造成され、藤田組に関連する施設が建てられていったとみられる。また、聞き取りによると、昭和初期には佐尾売山神社付近の平坦面には1・2軒家があったのみとのことである

以上のように、谷の東西に広がる平坦面はそれぞれで遺構・遺物の様相が異なっており、その背景には近世における都市整備や、近代の再開発、災害などが関連していることが判明した。これらの成果を踏まえ、平成24年度の調査地点として第3・4地点を選定した。また、平成26年に調査をした第5地点もこの分布調査の成果を利用し、選定した。



Fig. 4 昆布山谷地区分布調査採集遺物実測図Ⅰ (S=1/3)

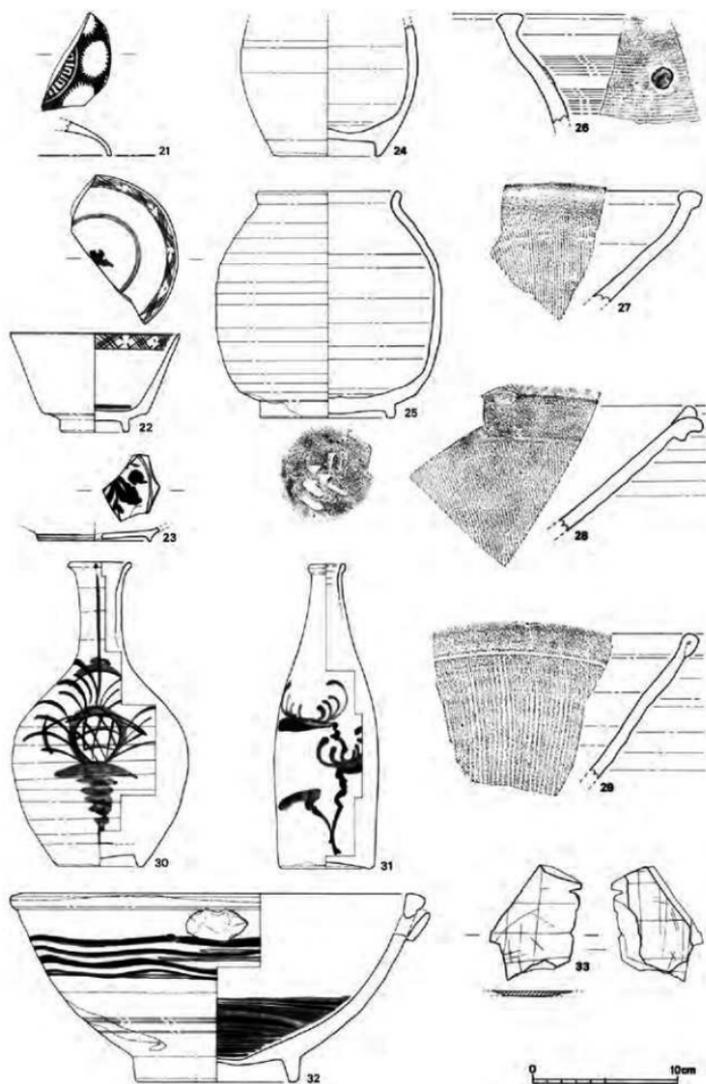


Fig. 5 昆布山谷地区分布調査採集遺物実測図 II (S=1/3)

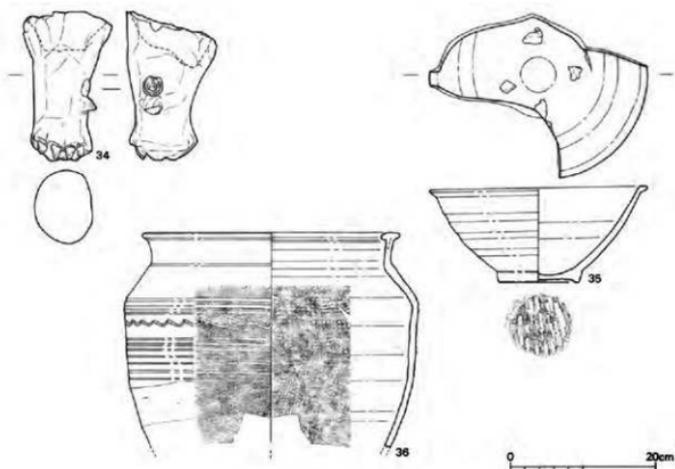


Fig. 6 昆布山谷地区分布調査採集遺物実測図III (S = 1/6)

Tab. 2 昆布山谷地区分布調査出土遺物観察表

插图 番号	出土地点	種別	器種	大きさ(cm)			色調	成形・調整・文様	備考
				口径	器高	底径			
1	東-14 X3H1-13	石見	土瓶	(7.4)	(6.3)		透明釉		「組大森」
2	東-14 X3H1-24	石見	土瓶		(3.5)		透明釉		「鑑」
3	東-14 X3H1-24	石見	碗		(4.2)		透明釉		「鑑」
4	東-14 X3H1-24	不明磁器	碗	(10.0)	4.5	3.6	透明釉		「新町於色」
5	東-12 X3H1-2	肥前磁器	碗		(3.9)	(6.0)	透明釉		
6	東-14 X3H1-24	瀬戸焼?	香炉	(7.2)	7.5	4.7	透明釉 緑釉	型押し成形	「香」
7	東-14 X3H1-24	石見	土瓶	(7.2)	(11.2)	(8.7)	透明釉 緑釉		
8	西-10 X2G10-32	焼締陶器	ルツボ	6.1	11.0	3.0	灰黄色		「41」
9	西-33 X2G10-95	肥前陶器	碗		(2.7)	5.2	長石釉		
10	西-10 X2G10-32	肥前磁器	碗		(2.9)	3.3	透明釉		
11	西-19 X3H1-11	肥前磁器	仏飯器	(6.6)	5.6	3.3	透明釉		
12	西-27 X3H2-54	肥前磁器	仏飯器	(6.8)	5.8	4.3	透明釉		
13	西-27 X3H2-54	肥前磁器	花入		(10.5)		青磁釉	龍耳	
14	西-34 X2H2-10	石見	花生	(21.2)	(19.4)	13.0	(内) 来待釉 (外) 灰釉	龍耳付	「嘉永四」刻字
15	西-27 X3H2-54	肥前磁器	碗	11.8	6.8	4.0	透明釉		
16	西-19 X2H1-10	肥前磁器	碗	(11.0)	(4.6)		透明釉		
17	西-18 X2G10-100	肥前磁器	碗		(4.2)		透明釉	七宝文様	
18	西-33 X2G10-95	肥前磁器	瓶		(6.2)	(4.9)	透明釉	胡唐草文様	
19	西-34 X2H2-18	石見	釜	3.8	4.6	3.0	来待釉		ミニチュア
20	西-34 X2H1-88	石見	皿	(19.0)	2.5	(13.3)	来待釉		
21	西-27 X3H2-54	肥前磁器	蓋		(2.4)		透明釉	四方譯文	
22	西-35 X2H1-90	肥前磁器	碗	(11.6)	7.0	(4.5)	(内) 透明釉 (外) 青磁釉	四方譯文	コンニャク印刷
23	西-27 X3H2-55	青花	皿		(1.0)	(7.8)	透明釉		
24	西-27 X3H2-54	肥前陶器	瓶		(19.2)	7.4	灰釉?		
25	西-27 X3H2-54	須佐焼	壺	(19.6)	15.8	9.2	灰釉	かんな痕	
26	西-14 X2G10-66	石見	甕		(7.7)		来待釉		
27	西-27 X3H2-54	不明陶器	すり鉢		(7.8)		錆釉		
28	西-14 X2G10-66	石見	すり鉢		(8.7)		来待釉		
29	西-27 X3H2-54	不明陶器	すり鉢		(10.2)		錆釉		
30	西-19 X2H1-10	肥前磁器	瓶	4.0	21.3	5.7	透明釉	草文様	完成品
31	西-30 X2G10-41	石見	徳利	2.3	21.3	6.1	透明釉 鉄釉 長石釉	草花文様	完成品
32	西-27 X3H2-54	肥前陶器	鉢	(27.0)	13.2	(10.5)	灰釉 白濁釉	刷毛目文様	片口
33	西-10 X2G10-32	石製品	石盤	現存長 8.0	現存幅 6.3	現存厚 0.4	黒色		方眼の目
34	西-23 X3H2-13	石見	煎火	現存長 20.9	現存幅 12.2	現存厚 12.3	来待釉		脚部
35	西-27 X3H2-54	須佐焼	鉢	(30.0)	13.4	11.2	灰釉	胎土目 かんな痕	
36	西-26 X3GH2-45	肥前陶器	甕	(35.6)	(30.0)		襷釉	波状文様	